

## 3学年が揃いました。

文責 学校長



### ~良き師・良き友・良き先輩・良き後輩との出会いを~

3学年が揃いました。対面式を契機として、良き師(先生)・良き友・良き先輩・後輩との出会いを大切にしましょう。その中から「**伯楽**」と「**千里馬**」との師弟関係や「**水魚の交わり**・**管鮑の交わり**・**刎頸の交わり**」と言える友人関係につながっていくことを期待します。また、13日(火)には部活動の紹介が予定されています。新入生は、是非**自分を輝かせることのできる部活動**を見つけて、トライしてください。2・3年生も自宅と学校の往復だけのさびしい高校生活ではなく、未来の子供に**誇れる高校生活**とするためにも部活動に是非チャレンジしましょう。

#### 1 師弟関係について

世に伯楽ありてしかる後に千里の馬あり。

千里の馬は常に有れども、伯楽は常には有らず。(韓愈『雑説』より)

【解説】千里の馬とは「1日に千里の道のりを走ることのできる優れた名馬」のことで、優秀な人物にたとえられます。また、「伯楽」とは、「世の中にあふれた数多くの馬の中から『千里の馬』なる名馬を見つけ出すことのできる優れた人」のことで、優秀な指導者や師にたとえられます。つまり、どんなに優れた人物でも、その才能を見出す優秀な師(指導者)に出会わなければ、その才能は埋もれて世に出ることはないということです。スポーツの世界で後進の育成に優れた指導者のことを「名伯楽」と呼ぶのは、ここからきています。

【具体例】古くは「勝海舟」と「坂本龍馬」の関係。「島津斉彬」と「西郷隆盛」の関係。最近では、「大谷翔平」選手と花巻東高校野球部の佐々木洋監督、日本ハムファイターズの栗山英樹監督、アナハイム・エンゼルススのマイク・ソーシア監督、そして、現在のジョー・マドン監督との出会い。特に、プロ野球解説者の多くが反対した二刀流に挑戦させた日本ハムファイターズの栗山英樹監督(大学の先輩です)との出会い、メジャーの評論家が「大谷はマイナーからスタートさせるべきだ」という声が多い中、開幕からレギュラーとして、それも二刀流で起用したソーシア監督との出会い、そしてリアル二刀流(投手で二番バッター)で起用し始めたマドン監督との出会いがなければ、現在の大谷選手の活躍はなかったでしょう。スーパースター大谷選手の活躍は、数々の名伯楽との出会いがあったからこそといえるでしょう。

⇒あなたの良さ・素晴らしさを見出し、伸ばしてくれる先生との出会いを大切にしましょう。

(この学校の中で自分の伯楽となってくれる先生が必ずどこかにいます。積極的にみつけましょう)

#### 2 友人関係について...故事成語から

##### 水魚の交わり

…水と魚が切っても切り離せない関係であるように、離れることのできない親密な関係を表し、古くは『三国志』の中に出てくる**劉備玄德**と軍師・**諸葛亮孔明**のことを喩えた言葉として有名です。(出典『三国志演義』より)

##### 刎頸の交わり

…「その友人のためなら首をはねられても悔いはない」というほどの親しい交わりを表し、春秋時代の趙の将軍・**廉頗**と名臣・**藺相如**の間柄を指しています。(出典『史記』より)

##### 管鮑の交わり

…「立場や地位が変わっても崩れることのない、利害を超越した信頼の厚い友情」を表す言葉で、同じく春秋時代に齊の国の宰相の**管仲**と大夫・**鮑叔牙**との変わらぬ友情をたたえた言葉です。(出典『十八史略』より)

【具体例】・「坂本龍馬」と海援隊を支えた「中岡慎太郎」、「近藤長次郎」らとの関係。  
・「西郷隆盛」と同じ薩摩藩の竹馬の友で、維新政府で大蔵卿を務めた「大久保利通」との関係。※しかし、晩年は袂を分かつことになる。

⇒誰と出会うかによって人生は大きく変わります。良き友との良き出会いを大切に。

(※悪い意味での「朱に交われれば赤くなる」ような、悪い友・悪い出会いとならないように。)

### 3 今日の名言・・・作家・井上 靖(やすし)の言葉です。人としてこうありたいものです。

#### 努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る。

【解説】未来に向かって明確な目標を掲げ努力を続けている人は、日々の生活が充実しており、何事もプラス思考で自分の夢や希望を語ることが出来る。逆に目標を持たず日々努力を怠っている人は、そんな自分の現在の姿に自信が持てず、他人に責任を転嫁するために不満ばかり語ってしまうということ。

私は、この言葉に人間のありよう、真理が込められていると思いますし、こうありたいものだといつも思います。

意識や言葉の力は大切なもので、**意識して希望を語ったりポジティブな言葉を発していくと、それに近いことや良い結果を引き寄せたりするものです。**反対にそうでない、不満やネガティブな言葉や発したりしていると、やはりそれに近い悪い状況を引き寄せたりしてしまったりしてしまう。もし不満を語りたくなってきたとしても、良い言葉を発して進めていきたいものです。

さて、生徒の皆さんはどうですか？「希望」を語っていますか、それとも「不満」を語ってしまっていますか？LINEやTwitter のつぶやきを振り返ってみて、どうでしょうか？友人の悪口や他者への「不満」のつぶやきが多くなっていませんか？

(SNS上で他人を誹謗中傷する行為は論外。人として最低の行為です。)

先生方や保護者の皆さんは如何でしょうか？学校や職場ではどうでしょうか？部下や同僚に「不満」を言っていますか？「希望」を語っていますか？家庭ではどうでしょうか？仕事や人間関係の愚痴や「不満」を話していませんか？友達や会社の同僚との会合に行ったときはどうでしょうか？

「不満」を語る人には「不満」を抱えた人が集まります。もし周りに「不満」を言う人がいたら、自分自身が「不満」を語っているのかもしれないね。

「希望」を語る人には応援してくれる人が集まります。そうやって幸運を引き寄せるのでしょうかね。

どんな仕事でも、勉強でも、スポーツでもこれが足りない、こうあってほしいと思ったりすることもあります。未来を語るか、今に対しての不満を語るかというのは意識の持ち方で違ってきます。ともすれば、人は自分の努力不足を棚に上げて他人や社会に対しての不満を語りがちになります。いつの間にかそのような不満の言葉が出てきてしまったりすることもあるから気をつけたいですね。

### 4 今日の一冊・・・井上 靖の『夏草冬濤(なつくさふゆなみ)』・『北の海』(新潮文庫)です。

中学・高校時代に、高校・大学受験勉強の傍ら読んでいたのが井上靖の**自伝的青春小説**の数々です。作家・井上靖は、白樺派の代表作家・志賀直哉の短編小説を書き写すことで自身の文章表現力を養っていたというのは有名な話です。時代は違っても青春時代の様々な葛藤は今日にも共通する普遍的テーマです。小説の世界に足を踏み入れてみるのにお勧めの作品です。出来れば、三部作「しろばんば」「夏草冬濤」「北の海」の順番に読むことをお勧めします。

**自由、放蕩、友情――私たちの青春がこの作品に詰まっています。「しろばんば」より続く、井上自伝文学の白眉と言える作品です。「しろばんば」、「夏草冬濤」、「北の海」は、井上靖自身がモテルの主人公・伊上洪作の、幼少から青年になるまでの自伝的な作品である(井上靖自伝的小説三部作)。「しろばんば」は静岡県伊豆湯ヶ島(現伊豆市湯ヶ島)で過ごした幼少時代の、「夏草冬濤」は旧制沼津中学校の生徒だった頃の、「北の海」は沼津中学卒業後の沼津での浪人生活の1年近くの日々を描いたもので、その日常、あるいは旧制第四高等学校の練習に誘われ、寝技主体の柔道、いわゆる高専柔道に明け暮れる洪作が生き生きと描かれています。井上靖の周囲に実在した人物がモテルとして多く登場し、特に「しろばんば」中に登場する、曾祖父の妾で洪作とは血の繋がらない「おぬいばあさん」(実在の名は「おかの」との生活は、井上靖の人格形成を語る上で欠かせないものです。**

【解説】「しろばんば」では、小学校卒業までが記されていますが、井上靖は、一浪後、名門浜松中学校に首席で入学します。その後、父の転勤に伴い、沼津中学校に転校し、三島の伯母(父の姉)の家から通う事になります。夏草冬濤は、その三年の夏からスタートしますが、当初、秀才型だった洪作(井上)が、詩や文学を好む、一見不良っぽい上級生に魅かれて行き、徐々に成績が落ちて行く過程が描かれています。

#### 【作家・井上 靖】について

「井上靖」(1907-1991)は、静岡県出身(出生地は北海道)の小説家&詩人。京都大学文学部哲学科卒業後、毎日新聞社に入社。戦後になって多くの小説を手掛け、1949(昭和24)年「闘牛」で芥川賞を受賞。1951年に退社して以降は、次々と名作を産み出します。「天平の甞」での芸術選奨(1957年)、「おろしや国酔夢譚」での日本文学大賞(1969年)、「孔子」での野間文芸賞(1989年)など受賞作多数。1976年文化勲章を受章しました。巧みな構成と詩情豊かな作風は今日でも広く愛され、映画・ドラマ・舞台化の動きも絶えません。